



10/15・16

貴船神社祭典の両日に 旧津倉邸を一般公開しました。

10月15日(土)、16日(日)は「掛塚まつり」。旧津倉邸でも昨年に引き続き見学会が開催され、私たちもガイド役としてお手伝いさせていただきました。旧津倉邸を訪れた見学者は、2日間で650人。津倉家の玄関先にも御神燈の提灯が掲げられ、表通りでお囃子の音が聞こえて来れば説明は一時中断。格子窓越しに引き回される屋台を眺めていただきました。

かつて湊町として栄えた掛塚へ天竜川を下って来た良材を板や柱に挽いて組み上げ、手の込んだ彫刻を施し、技術の粋を集めてこの豪華な屋台を造ったのはもちろん掛塚の大工たち。そんな腕の良い大工が建てたのが旧廻船問屋津倉邸でもあるのです。
至る所に見られる遊び心も、津倉家住宅の魅力。

胡麻柄(ごまがら)の組子欄間を透かして漏れる明かりが、空(もく)と呼ばれる柱目とも板目とも違う複雑な模様を持つ木目板の天井に映る美しさは、得も言われぬ美しさです。

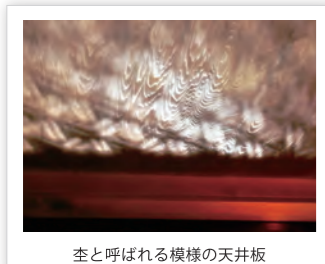
見学者の気が高かったのは歪みガラスを通して見る、ドウダンツツジの紅葉。障子戸の中央にガラスを入れた



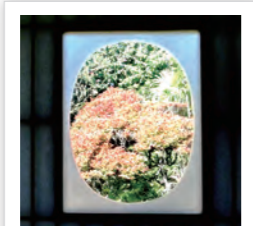
格子窓越しの屋台



模絵を鑑賞中



空と呼ばれる模様の天井板



額入り障子

ものを「額入り障子」と呼びますが、まさに額に入った絵のようです。障子の前でカメラを構える見学者の皆さん。シャッターを押す瞬間に、贅沢な時間が流れた見学会でした。

記事 齊藤朋之

みんなと倶楽部

My hometown Kaketsuka



第3号

P1 旧津倉邸を一般公開しました
P2 旧津倉邸探訪其の三

P3 貴船神社社務所改築竣工にあたって
P4 ちよつといーけ?
関正胤さん(本町)
鵜飼順作さん(蟹町)

関正胤さん 79歳(本町)



Q 宮司になる前、ヤマハ発ではどんなお仕事をしていましたか?

まだ世界では「ヤマハ」という名前も知られていない頃、スポーツタイプのバイクの技術開発と宣伝のためにホンダやスズキに続いて世界のレースに参戦する事になって、私もエンジニアとして携わる事になったんだ。レースの数ヶ月前からイギリス人ライダーの家に泊まり込んでマシンの調整やテストをして。休みもなく一年の半分は家に帰るの明け方2時3時だったね。大変だったけど自分で考えた事をやりたいという気持ちでやらせてもらって結果が出るっていうのが楽しくて、良い時代でしたよという意味ではね。参戦して4年目に世界チャンピオンになった時は本当に嬉しかったな。

Q 英語は話せたんですか?

昔は神社の裏に警察があつてね、戦後はよくアメリカ人が来て会話していると川袋の「めーちゃー」という英語の先生だった方が呼ばれて通訳していて、それを見て「おっ、これは面白い！」って思って、それから英会話をやり始めたんだ。だから仕事で外国に行っても困らなかつたんだ。

Q 宮司さんになったのはいつ頃なんですか?

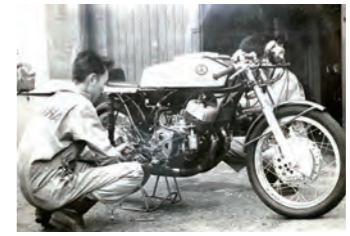
定年になった翌年の春から学校で勉強したんだよ。歴史、祭式、立ち居振舞い、作法とかね。朝から晩まで板の間に正座して勉強するんだ。そのお陰で正座が長く出来るようになってきたんだけど、あれは試練だったね。(苦笑)

Q 昔の心に残っている出来事を教えてください。

今も境内の真ん中に二本並んでいるイチヨウの木、あれにしょっちゅう登って…。ってへんまで登っては海を眺めるのが好きだったな。木はあの頃から大分伸びてるけど当時は下から一番近くにある枝に手が届いたから、子供でも掴まっただ登れたんだよ。あと怖かった記憶はね、終戦直後の暴風雨で堤防が切れそうになった事があつて、堤防に見に行ったら消防の人達が水をあふれている所に土嚢を積んでいて…。上流からは貯木してあつた丸太ん棒がごろごろ流れてきて橋を壊していくんだ。一面水で中州なんか見えなかつたんだけど浜松側で川が決壊したら水位がスーッと引いて行ったんだ。大水で橋が流されると橋の途中から河原に下りて、また橋がある所から登れるようにしてくれてね。当時は食料難で、よく中田島の親戚に食料をもらいに行つたから、しょっちゅう乳母車を押し下りた登つたりしたんだよ。

宮司の関さんしか知らない私はエンジニアとしての姿と功績にビックリ。海外出張も多く留守の間は奥様やお母様が神社を守っていたそうです。子育てにも参加できなかった関さんは「今、立つ瀬がないね。何を言われても」と笑っていました。神社に行くといつも笑顔で迎えてくれるお二人にいつも気持ち癒されます。

(by のりこ)



温故知新! 掛塚を知る「にーさ・ねーさ」の方々に、掛塚生まれの主婦二人組(のりこ&さゆり)がインタビュー。

ちよつといーけ?

今回は、本町の関正胤さんと蟹町の鵜飼順作さんをインタビュー。

鵜飼順作さん 82歳(蟹町)



Q 現在はお百姓をされているようですが以前のお仕事は?

学校を卒業して働きながら夜間の製図学校で勉強して、その後も町工場で技術を身に付け31歳で独立して稲垣プレスを始めました。それから新町の石川プレスさんと合併してフタバ製作所を造つたんです。フタバって名前は一人が一緒に造つたからだけど、二葉が四つ葉になって大木になるという希望を持った会社という意味を込めて名付けたんです。

Q 東南海地震を経験された時、どんな様子でしたか?

学校の昼休みに友だちと忘れ物を取りに家に帰つた時に起きたんだ。とても立っていられなくて、屋根からは瓦がガラガラ落ちてきてね。地割れがひどく田んぼからは噴水のように水が噴き出して道路にも大きな亀裂が入つてたよ。こちら辺の家はほとんど傾いてたね。

Q 戦争はどんな風でしたか?

戦争で一番怖かつたのは、艦砲射撃だね。逃げ込んだ防空壕の木の蓋が砲撃の振動でガタガタと震えていたよ。

Q その頃、何か楽しみはありましたか?

蟹町って全体がまとまって色んなことをする部落だったのね。皆んなで、陣取り合戦やかくれんぼしたのを思い出すね。中学の頃に野球が流行つて、最初は手作りのグローブや木の棒のバットだったけど、蟹町の下で皆んなで採つた蛸を掛塚の町へ売りに行つたお金で道具を買つて遊ぶようになった覚えがあるね。「おーい、蛸買ってこれよ」と入つていけばさ、みんな喜んで買ってくれたね。

Q お習字がお得意だとお聞きしたんですが?

習字は集中して無になって書けるじゃない。雑念を忘れてそのものに集中できるところがいいですね。最初の頃は毎月半紙に千枚書いて先生に見てもらっていましたよ。(笑)

Q 今までを振り返ると、どんな人生でしたか?

波乱万丈だった。起業した頃は妻にも苦労かけたけど、女性に負けてちやいかんという気持ちで一念発起できたのかもしれない。幸せな結婚をし、子供にも孫にも恵まれ有意義な人生を送れたよ。戦前戦後、苦しい時があつたからこそ楽しい事が余計に楽しく感じる事ができた。最初から恵まれた環境にいと、恵まれてい

ることに気付かないからね。
奥様との馴れ初めをお聞きすると「小学校一年生の時、席が隣り同士だったんですよ。」と少し照れた様子…。戦前から戦後の厳しい時代を生きて、物がなく不便でも誰かに頼るのではなく自分で何とかする、鵜飼さんからはそんな力強さを感じました。玄関を入って正面の吹抜の壁に飾られた鵜飼さんの書「静春」はとても素晴らしい書です。
(by さゆり)



みんなと倶楽部
My hometown Kaketsuka



- 会長 池田藤平
- 事務局 名倉慎一郎、大沢利行、佐藤喜好
- 編集 霧田茂巳、山内紀子、鈴木小百合

お問い合わせ

ご興味のある方は
下記までご連絡ください!

☎ 0538-66-4775 (名倉)

